

決算

令和5年度の一般会計の決算額は、歳入が540億7,446万2千円、歳出が516億9,556万4千円となり、前年度と比べ、歳入で1.9%の減、歳出で1.8%の減となりました。また、特別会計・企業会計については表のとおりとなりました。

☎ 財政課 ☎30-6107 ☎22-1398

一般会計

歳入額	歳出額
540億7,446万2千円	516億9,556万4千円

特別会計

会計名	歳入額	歳出額
国民健康保険事業	99億5,578万7千円	99億1,625万6千円
休日急病診療所事業	1億793万8千円	8,487万8千円
農業集落排水事業	2億9,235万円	2億7,684万円
介護保険事業	91億1,820万2千円	91億575万8千円
後期高齢者医療事業	14億5,550万8千円	14億2,897万1千円

企業会計

病院事業	152億2,738万8千円	159億1,353万円	※
水道事業	27億2,465万5千円	33億6,650万2千円	※
下水道事業	71億246万4千円	83億6,897万3千円	※

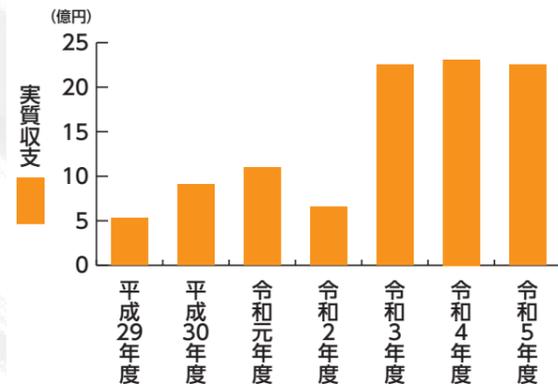
※不足分は損益勘定留保資金などで補填しました。

収支の状況

約23億円の黒字

自治体の決算収支をあらわす一般会計の実質収支は、昭和33年度以降毎年度黒字となっております。令和5年度決算は、22億5,371万6千円の黒字となりました(グラフ1)。

これは、歳出では、議会費、総務費、民生費、衛生費、労働費、農林水産業費、商工費、公債費が前年度に比べ増加しましたが、歳入では、市税、繰入金、寄附金などの自主財源の増加により、歳入を確保したことによるものです。



財政指標

財政の早期健全化や再生の必要性を判断するための指標のことを「健全化判断比率」といい、次のとおり、4つの比率があります。

健全化判断比率 (%)

区分	実質赤字比率	連結実質赤字比率	実質公債費比率	将来負担比率
算定数値	—	—	7.6	59.0
早期健全化基準	12.00	17.00	25.0	350.0
財政再生基準	20.00	30.00	35.0	—

★早期健全化基準

法令上、自主的な改善努力による財政健全化が必要な状態で、いわゆるイエローカード

★財政再生基準

法令上、国などの関与による確実な再生が必要な状態で、いわゆるレッドカード

資金不足比率 (%)

区分	算定数値	経営健全化基準
農業集落排水事業特別会計	—	20.0
病院事業会計	—	20.0
水道事業会計	—	20.0
下水道事業会計	—	20.0

★実質赤字、連結実質赤字、資金不足が生じていないものは、「—」で表示しています。

①実質公債費比率

年間収入に対し、借金の返済額が占める割合を示すもの。7.6%は前年度から0.7ポイント悪化しました。

②将来負担比率

今後返済が必要な借金などの総額が、収入の何倍に相当するかを示すもの。59.0%は前年度から2.9ポイント悪化しました。

③実質赤字比率、④連結実質赤字比率

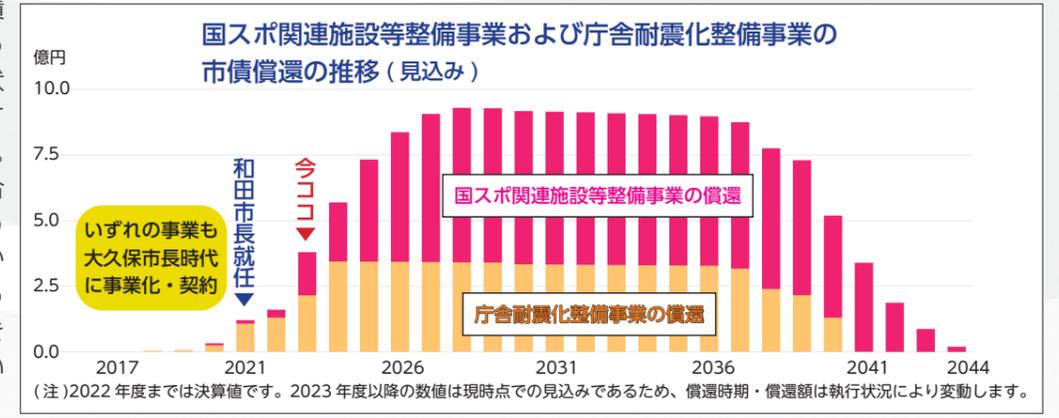
一般会計や特別会計などが赤字かどうかを示すもの。ともに発生していません。

和田市長が語る彦根市の「財政状況」

彦根市の現状

令和5年度の決算については、左のページのとおり、収支のバランスが保たれました。これは事業効果などを踏まえて徹底的な業務見直しを行ったほか、ふるさと納税が過去最高益となったことにより得られた結果ですが、**本市の財政状況に余裕があるわけでは決してありません。**

国スポ・障スポの主会場を受け入れるなど、以前に彦根市の規模に見合わない行動を取ってきたことにより、今後、多額の市債償還が長きに渡って続くという状況が生じています(右のグラフ参照)。彦根市が市町村合併をしないという選択をした時点から、規模に見合った行動を取るべきだったのではないのでしょうか。



市民の生活を第一に

このように彦根市の財政は過去最悪と考えていますが、**この限られた財源の中で、市民の皆さんへの影響は最低限に留めています。**税負担についても他市町と比べて高いというわけではありません。18歳以下の医療費については一部自己負担が必要な市町がある中、彦根市では完全無償化しているように、市民生活を優先に考えています。

今こそ、ポテンシャルを開花

この状況を打破するため、われわれ彦根市ができることは、「**自主財源を確保すること**」です。まずは、市税収入を増やす、つまり生産年齢人口や関係人口を増やさなければなりません。そのためには、今あるポテンシャルを最大限開花させることが必要不可欠です。琵琶湖をはじめとした地の利を活かすことは、「映画のまち」にももちろんつながります。Jリーグの誘致は、平和堂HATOスタジアムの利用による宿泊客などの呼び込みにつながります。また、観光戦略の見直しも重要だと思っています。民間の活力を利用しながら体験型・宿泊型観光に力を入れ、国内はもちろんインバウンド客向けにも展開を進めていく必要があります。**できることはすべてする、これが今の彦根市には必要です。**



彦根市の未来のために

今後、彦根市だけでなく全国的に人口減少社会の問題に直面します。財政健全化に向けた取組を今のうちからすることは、未来に向けての備えを早めにし、将来にわたって市の安定を図ることになります。彦根市は、引き続き、人口増加、そして財政復活に取り組んでいきます。